239, 1937. 4) K. Hisauchi in Journ. Jap. Bot. **14**: 143, 1938. 5) J. Ohwi in Journ. Jap. Bot. **26**: 229, 1951. 6) S. Kitamura, l. c. 239. 7) H. Hara in Journ. Jap. Bot. **18**: 185, 1942. 8) M. Sato in Journ. Jap. Bot. **12**: 47, 1936. 9) S. Hattori in Tokyo Bot. Mag. **64**: 26, 1951. 10) N. Takaki in Journ. Jap. **26**: 173, 1951.

○ヤクシマホツツジ（大井次三郎）Jisaburo OHWI: On two forms of *Tripetaleia paniculata.*

ホツツジの蕚に2型あることは早くも 1926（大正 15 年），中井博士が氣付かれ，日本樹木誌の改訂版に *Tripetaleia yakusimensis* Nakai ヤクシマホツツジとして記載せられた。その後正宗博士は此の形ちが九州本土にも產することに注意されたが，北村博士は 1941（昭和 16 年）九州及び關西方面に中間があるのを認め，ホツツジの變種 *T. paniculata* var. *yakusimensis* (Nakai) Kitam. に改められた。此の經過は筆者も至當と認めるものである。しかし一方既に Maximowicz は 1873 年に，ホツツジに 2 型あるのを知り，變種として記載している。その內の α. *angustifolia* は foliis angustioribus et glabrioribus, ramis floriferis acute angulatis, racemis subsimplicibus, calyce 5-dentato. Hab. in Japoniae (Buerger !) ins, *Kiusiu*, alpibus, variis locis, Julio fl., *Nippon* media (Tschonoski). とあつて本州中部の須之助の標本と共に多數の九州產のものを見ている。一方 β. *latifolia* は calyce obsolete dentato と記し，產地も北海道であるから，ホツツジであるのは明かであるし，筆者はMaximowicz の *L. angustifolia* Maxim. をヤクシマホツツジにあてたい。*Tripetaleia paniculata* Sieb. et Zucc. の原記載に圖があつてそれによると蕚は明かに扁三角の齒があり，ヤクシマホツツジに當るので學名は次の樣になる。

Tripetaleia paniculata Sieb. et Zucc.

var. **paniculata** (Sieb. et Zucc.) ヤクシマホツツジ

var. **latifolia** Maxim. ホツツジ

○ハコツツジ（大井次三郎）Jisaburo OHWI: On the meaning of a Japanese name "Hakotsutsuji" for *Tripetaleia bracteata Maxim.*

ミヤマホツツジの和名の一つにハコツツジがある。和名の意味については磧學牧野富太郎先生もその意詳かならずと植物圖鑑に見えて居る。私はハコツツジを葉ツ子ツツジの意味に解釋して見た。東北地方ではコの音を語尾につける習慣が一部にあつて，ミヤマホツツジが東北地方の山地に多く生じるのと，花が目立たずに綠色を帶びた白色であるので葉ばかりのツツジの意味が良くその特徵を現はして居ると思はれる。二三東北地方の方言に關して文獻に當つて見て，此の名を見出す事は出來なかつたが，どこかで此の植物をハコツツジと呼んで居りはしないだろうか？